

大仁町

地形概況

狩野川の谷底低地をはさんで西側には城山・静浦山地、東側は多賀火山の西斜面がのび原面も残る。深沢川が西流し、山地からの出口に扇状地や段丘を形成した。浮橋・田原野などは丹那断層の延長上の盆地であり、田中山は丘陵性山地である。

地質概況

多賀火山西斜面の安山岩質溶岩、火山角礫岩よりなり、侵食谷には湯ヶ島層群が露出する。火山灰の堆積地も広く分布する。丹那断層が山地を東西に分断し、山麓部には砂礫層がのる台地も発達する。狩野川ぞいの低地は砂質泥質の沖積地である。

気象概況

年平均気温は推定 15.4℃、年平均降水量が推定 1,970mm で冬季は温暖で穏やかな晴天の日が続く、夏は涼しく、気温の年較差が少ない。降雨は県内でも少ない方であり、特に春から夏季(5月から8月)にかけて全降水量の約 50%の雨が降る。

災害事例 地震

- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
浮橋付近を通り南北につづく2本の断層、浮橋中央断層(延長約3km)と浮橋西方断層(延長約5km)、田原野付近を西北西に走る田原野断層(延長約1km)を生じた。田中山西麓には山崩れが起こった。この地震によって田中村で死者8人、負傷者18人、住家全潰63戸、半潰505戸、北狩野村では死者23人、負傷者122人、全潰209戸、半潰291戸の被害を受けた。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震で、当町でも当時の北狩野村で1人の死者が出たほか、家屋全潰14戸(2.3%)の被害があった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震津波
県下一帯に被害を受けた大地震である。当町では大仁・北狩野でともに震度5程度であった。

災害事例 台風

- 1959年8月13日(昭和34年)台風7号
県中部以東で被害があった。狩野川出水で大仁3m、徳倉7m、黒瀬6m浸水し、死者3人、負傷者34人、全壊128戸、半壊537戸、床上浸水1,308戸、床下浸水2,094戸の被害を生じた。
- 1958年9月26日(昭和33年)狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大で、死者・行方不明1,000人以上を出した。大仁の最大日雨量26日250mmであった。被害は大仁で死者202人、負傷者236人、行方不明18人、全壊41戸、半壊71戸、流失147戸、床上浸水179戸、床下浸水312戸、流埋田畑127ha、また北狩野で死者3人、負傷者3人、行方不明2人、全壊5戸、

半壊 22 戸、流失 9 戸、床上浸水 36 戸、床下浸水 62 戸に及んだ。

- 1922 年 8 月 23 日 (大正 11 年)
全県下で被害を生じ大仁署管内の被害は半壊 60 戸、床上浸水 50 戸、床下浸水 59 戸、冠水田 3ha、堤防決壊 684m であった。風速は石廊崎で 43.0m/s、雨量は上狩野で 362mm(23 日)、238mm(25 日)に達している。
- 1920 年 9 月 30 日 (大正 9 年)
伊豆地方に大被害あり。大仁では死者 20 人、行方不明 9 人、全壊 13 戸、半壊 29 戸、流失 80 戸、床上浸水 727 戸、床下浸水 742 戸、冠水田畑 353ha、山崩 84 個所の被害を受けた。石廊崎で風速 24.3m/s、熱海の日雨量 261mm(30 日)であった。
- 1859 年 7 月 23 日 (安政 6 年) 未の満水
昼頃より大風雨となり、“近来まれ”な大洪水が起こった。このため、神島・吉田・白山堂・守木一帯は大きな湖水のようになってしまった。
- 1671 年 9 月 29 日 (寛文 11 年) 亥の満水
流失・倒壊・浸水家屋が多数生じ、また死傷もあった。大河川のみでなく山間の谷間も多く出水し、田畑を荒廃させてしまったという。

災害事例 豪雨

- 1989 年 7 月 29 日 (平成元年)
東部、伊豆を中心に総雨量 200mm を越える大雨となった。三島では 29 日 9 時からの 1 時間に時間雨量 72mm を記録している。大仁町の採石場で土石流が発生し、死亡 1 人、軽傷 1 人の被害が出た。
- 1961 年 6 月 28 日 (昭和 36 年)
梅雨前線豪雨で、この日午後、1 時間雨量 30~60mm の強い雨の区域が伊豆地方に集中した。そのため狩野川は大洪水となり、大仁町板橋で土砂くずれが起き、住家 1 戸押しつぶれ 2 人死亡 1 人負傷した。